

古代米の田植え

6月17日(水)

菊池北小学校(吉良智恵美校長)の5年生32人が、交流している福岡県大刀洗町の菊池小から贈られた古代米の田植えをしました。

地元の農家が提供してくれた学校近くの水田約8アールに、強い日差しの中、児童たちは泥だらけになりながらも元気いっぱい苗を植えました。

はじめは、足元がふらついていた児童も後からは保護者たちが配る苗が追いつかないくらいに上達していました。田植えを終えた児童たちは「早く大きくなってほしい」「おいしく育ててほしい」や「足や腰が痛くきつかった」と話してくれました。



「おいしくなれ」と気持ちを入れて植えていく北小の児童たち

ふれあい田んぼ教室

6月21日(日)

農業に接することのできない都市部(福岡県)に住む小学生約60人と保護者を対象に、農業体験を通じて、食の大切さ、環境の大事さを学んでもらうことを目的に、七城町の橋田地区で開催されました。

始めは、田んぼの中に入るのもためらっていて、汚れを気にする子どももたくさんいましたが、時間がたつにつれ田植えにも慣れてきて泥だらけになり楽しむ姿がみられました。また、楽しむだけでなく田植えの大変さも同時に感じた様子でした。



田植えをする小学生たち

支援米の田植え

6月23日(火)、25日(木)

隈府小学校(植嶋憲一郎校長)と花房小学校(大賀朋子校長)の児童たちが、「食料難に苦しむ海外の人に支援米を送ろう」とそれぞれ田植えを行いました。

「食とみどり、水を守る菊池の会(隈部 稔会長)」が毎年続けているもので、25日(木)には花房小学校の全校児童84人が、強い日差しの中、学校近くの水田で稲の苗を一つ一つ丁寧に植えました。

6年生は毎年経験しており、苗を植えながら1、2年生の指導も行うなど、関係者も驚くほどの上達ぶりを見せられました。



支援米の田植えをする花房小の児童たち

七城地区幼稚園・保育園児の田植え

6月26日(金)

米作り体験を通じて、農業の楽しさ・大変さ・大切さを感じてもらおうと、七城町橋田の田んぼで、地元の幼稚園、保育園の年長園児約60人を対象に田植えを実施しました。菊池市青年農業者クラブが実施したもので、今年度は特に園児たちの筋が良く、将来が楽しみだとクラブ員も驚いた様子でした。



初めての田植えにはしゃぐ園児たち

国土交通大臣より顕彰

5月27日(水)

山本千代徳さんが「ものづくり」に対し、特に優秀な技能・技術を持ち、後進の指導・育成などに多大な貢献をしているとして優秀施工者国土交通大臣顕彰を受けました。この顕彰者は、建設マスターと呼ばれる「ものづくりの名人」です。山本さんは、建設業に従事し30年のベテラン。この受賞の感想を「たいへんありがたい事です。受賞は、組合や仲間たちの後押しがあつての賜物だと思っています。建設マスターと呼ばれる重みをひしひしと感じますが、この重みに負けず、地域社会に貢献していきたい」と話されました。今後の活躍を期待します。



受賞された山本千代徳さん(中央)

熊本県子ども会連合会功労表彰

5月30日(土)

熊本県子ども会連合会より、菊池市子ども会育成協議会の稲田壽昭さん(☎ 富出分)の永年の功績を称え表彰状が贈られました。

稲田さんは17年という永年にわたり子ども会活動に携わられており、育成者として地域の伝統や文化を子どもたちに伝え、地域の子もただでなく、校区および菊池市全体における子どもたちの育成に勤められています。



表彰状を手にする稲田さん

行政相談員への感謝状贈呈

6月5日(金)

七城総合支所で、永年(8年)にわたる市の行政相談委員を退任された中村正継さんに対し、総務大臣感謝状が贈呈されました。

行政相談委員は、年金の裁定額に納得できないなど、国や役所の仕事に関する苦情や要望などを受け付け、その解決・実現を図る活動を行うものです。

熊本行政評価事務所から感謝状を贈呈された中村さんは、「地域の皆さんに良かったと言われた時など最もやりがいを感じました。振り込め詐欺や訪問販売などの相談は、熊本消費者センターと連絡を取りながら解決していきました。またいろいろな相談があり、逆に自分の勉強にもなりました」と退任のあいさつを行いました。



感謝状を手にする中村さん

笹本哲朗さんが花卉園芸功労賞を受賞

6月15日(月)

笹本哲朗さんが花卉園芸功労賞を受賞されました。長きにわたり熊本県の花き振興と発展に尽力されたことが認められたものです。

現在は、カスミ草とトルコキキョウを50アール栽培しており、率先して新しい栽培技術に取り組むとともに、部会長として若い生産者の育成にも力を注いできました。笹本さんは「花というものは、とても景気に左右される商品ですが、世の中には必要な商品です。これからも人々を和ませ、心を癒す、そういった花をつくっていきたい」と話されました。

今後のますますの活躍を期待します。



賞状を手にする笹本哲郎さん